

令和3年度年報

2022. 6

群馬県立土屋文明記念文学館

2021

目次

1 沿革	
(1)沿革	1
(2)令和3年度の主なできごと	2
2 施設概要	4
3 管理運営	
(1)組織及び職員	4
(2)利用者数	5
(3)歳入歳出(決算)の状況	6
(4)修繕	6
(5)備品	7
4 展示活動	
(1)常設展示	7
(2)企画展示	10
(3)移動展	14
(4)ミニ展示	17
(5)特別展示	17
5 教育普及活動	
(1)企画展関連講演会	18
(2)企画展・特別展関連行事	19
(3)文学講座	20
(4)群馬県文学賞 受賞記念講演会・受賞作品展.....	21
(5)学校教育との連携	22
(6)地域との連携	23
(7)子ども向け事業	24
(8)ボランティア活動	25
(9)自主学習会	25
(10)広報活動	26
(11)刊行物の発行	29
6 資料収集・調査研究	
(1)資料収集	29
(2)資料の整理・保存管理	30
(3)資料貸出	31
7 利用案内・位置図	
(1)休館日	32
(2)開館時間	32
(3)企画展観覧料	32
(4)施設利用料	32
(5)位置図	33

1 沿革

(1)沿革

1981(昭和56)年	10月	近代文学館設立期成会議を結成
1983(昭和58)年	4月	群馬県教育委員会が昭和58年度予算に文学館建設調査費計上
1985(昭和60)年	12月	近代文学資料等調査検討委員会(20名)を設置
1988(昭和63)年	2月	近代文学資料等調査員(12名)を設置
1990(平成2)年	12月	土屋文明逝去
1991(平成3)年	4月	近代文学資料室を設置
同	7月	土屋文明遺族より群馬町に資料の寄付申込み
同	同	群馬県生涯学習センター内に土屋文明資料展示室設置
同	11月	群馬町から県に「土屋文明記念館」建設の陳情
1992(平成4)年	4月	群馬町に記念文学館建設調整室設置
1993(平成5)年	1月	建設推進委員会(9名)を設置
同	3月	文学館建設基本構想策定
同	4月	群馬県教育委員会文化振興課に建設準備係(5名)設置
1994(平成6)年	2月	都市計画公園事業の大臣認可
同	3月	建築実施設計
同	4月	文学資料整理作業室を県立図書館内に設置
同	12月	上毛野はにわの里公園占用許可
同	同	建築工事開始
1995(平成7)年	12月	建築工事終了
1996(平成8)年	2月	文学資料の移送搬入
同	3月	展示工事完了
同	4月	群馬県立土屋文明記念文学館設置及び管理に関する条例施行
同	同	群馬県立土屋文明記念文学館組織発足
同	7月	伊藤信吉館長就任(※空白期間は群馬県教育委員会事務局幹部職員が兼務)
同	同	開館
1998(平成10)年	5月	天皇皇后両陛下下行幸啓
1999(平成11)年	8月	『群馬文学全集』全20巻刊行開始(～平成14年度)
2002(平成14)年	8月	伊藤信吉館長逝去
2006(平成18)年	7月	開館10周年記念展「ぐんま文学の森」(12月)ほか
2008(平成20)年	8月	秋篠宮殿下、同妃殿下、眞子内親王行啓
2012(平成24)年	3月	入館者50万人達成
2016(平成28)年	10月	開館20周年記念展「角田柳作とドナルド・キーンー群馬から世界へー」
2021(令和3)年	7月	開館25周年記念展「宮沢賢治ーみんなのほんとうのさいわいをさがしにー」

(2)令和3年度の主なできごと

4月1日	新年度開始 酒井隆館長就任
同	公式ホームページリニューアル
4月17日	第111回企画展「怪談－こわい話に花が咲く－」オープン
同	展示解説1
4月29日	講談「四谷怪談」(神田山緑氏)
5月14日	第46回新型コロナウイルス感染症対策本部会議において、群馬県まん延防止等重点措置適用決定
5月16日	まん延防止等重点措置の適用により6月13日(日)まで臨時休館
5月17日	5月21日(金)までの5日間、NHK 前橋「ほっとぐんま630」にて怪談展紹介
5月21日	群馬テレビ「ニュース eye」内「ミュージアム eye」のコーナーで、怪談展紹介
6月3日	消防訓練
6月4日	燻蒸(収蔵庫・書庫)を前倒しで実施(6月9日(水)まで)
6月10日	企画展会期延長決定
6月14日	再開
6月18日	高崎市立上郊小学校の児童が校外学習で来館(25日、30日、11月25日も)
6月19日	展示解説2
6月25日	県立高崎高等特別支援学校の生徒が校外学習で来館
6月27日	記念講演会「文豪たちと怪談文芸」(東雅夫氏)
7月4日	展示解説3、怪談展クローズ
7月10日	開館25周年記念 第112回企画展「宮沢賢治－みんなのほんとうのさいわいをさがしに－」オープン
同	展示解説1
7月18日	朗読イベント「銀河鉄道の夜」(渡辺陽与氏)
7月22日	クラリネットとピアノによるロビーコンサート(神戸圭介氏、道子氏)
7月25日	展示解説2
8月7日	記念講演会「祖父 清六と 宮沢賢治」(宮沢和樹氏)
同	「雨ニモマケズ手帳」原本期間限定公開(8月20日(金)まで)
同	三館スタンプラリー開始(9月20日(月・祝)まで)
8月8日	まん延防止等重点措置の適用により31日(火)まで観覧人数制限(30人)
8月10日	展示解説3
8月12日	教育普及係1名がコロナ対応業務兼務(9月30日(木)まで)
8月13日	群馬テレビ18時、20時のニュースで賢治展紹介
8月20日	緊急事態宣言発令(9月12日(日)まで) 滞在時間制限追加
9月9日	緊急事態宣言9月30日(木)まで延長 イベント開催不可

9月20日	賢治展クローズ
10月9日	第113回企画展「わらう！太宰治」オープン
同	展示解説 1
10月16日	ミニ展示「夭折の詩人 長澤延子」オープン(10月31日(日)まで)
10月24日	文学講座「大戦末期の文明、楸邨の大陸行 その謎を解く」(雁部貞夫氏)
10月31日	展示解説 2
11月6日	記念講演会「太宰治の笑いの方法」(斎藤理生氏)
11月14日	展示解説 3
11月21日	語り劇「語り劇版 走れメロス」(小河知夏劇場)YouTube ライブ配信(12月19日まで配信)
12月4日	展示解説 4
12月12日	記念講演会「太宰治 思想と服装と笑い」(町田康氏)
12月19日	太宰展クローズ
12月24日	町田康氏講演会 YouTube 配信開始
1月15日	第114回企画展「写真で見る近代詩－没後20年伊藤信吉写真展－」オープン
同	展示解説 1
1月29日	記念講演会「『銀河鉄道の夜』の旅を胸に、ジョバンニはどう生きるだろうか」(栗原敦氏)
1月30日	展示解説 2
2月2日	ミニ展示「第59回 群馬県文学賞 受賞作品」オープン(2月23日(水・祝)まで)
2月5日	記念講演会「写真家の心 詩人の眼－伊藤信吉さんのこと」(小松健一氏)
2月11日	第59回 群馬県文学賞 受賞記念講演
同	『新古今和歌集』写本特別公開(2月28日(月)まで)
2月16日	群馬テレビ「ニュース eye」内「ミュージアム eye」のコーナーで、伊藤展紹介
2月19日	展示解説 3
2月20日	文学講座「最新技術を使った『新古今和歌集』写本及び古筆切の修理」(半田昌規氏)
同	文学講座「土屋文明記念文学館本を読みつつ考える『新古今和歌集』の歴史」(海野圭介氏)
2月26日	ミニ展示「全国文学館協議会 第10回(2021年度)共同展示 3.11 文学館からのメッセージ アララギ歌人と関東大震災」オープン(3月21日(月・祝)まで)
3月5日	記念講演会「『ひらく』詩の世界－伊藤信吉、旅の先にあるもの－」(東谷篤氏)
3月13日	朗読イベント「セロ弾きのゴーシュ」(渡辺陽与氏、ジェフリー・バドリック氏、神戸圭介氏、道子氏)
同	伊藤展クローズ

2 施設概要

(1)設置の目的

土屋文明の業績を記念し、文学に関する県民の理解を深め、もって教育、学術及び文化の発展に寄与する。

(2)設立

- ・平成8年7月11日開館
- ・平成11年6月3日博物館登録

(3)所在地

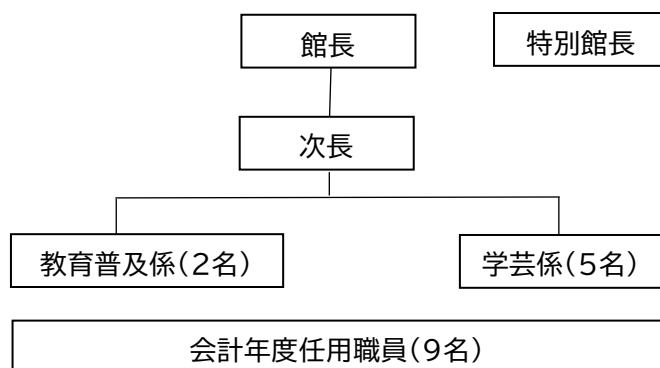
群馬県高崎市保渡田町 2000 番地(上毛野はにわの里公園内)

(4)設備等

- ・用地面積 2,465.61 m²
- ・建物構造 鉄筋コンクリート造り2階建て
- ・建物面積 延床面積 3,171 m²
- ・主要施設 常設展示室(396.8 m²)、企画展示室(279.5 m²)、映像展示室(65.9 m²)
閲覧室(62.1 m²)、研修室(289.1 m²)、創作室(和室)(43.6 m²)
収蔵庫(152.2 m²)、書庫(222.3 m²)、レストラン、ミュージアムショップ
- ・建設費 約27億円
- ・駐車場 普通車50台、大型バス5台、身障者用2台

3 管理運営

(1)組織及び職員



(2)利用者数

① 入館者数 ※開催が延長された宮沢賢治展のイベント入館者数は伊藤信吉展に加算

区分	有料観覧者								無料観覧者								観 覧 者 計 A	教育普及事業等				A+B+C	うち企画 展開連	その他 施設利 用D	入館者 数集計 A+B+C+D
	一般（個人）		大高（個人）		一般 （団 体）	大高 （団 体）	共通 パス	小計	中学 以下・学 校団体	障害者	減免	引率 介護	招待	小計	館 内 B	館 外 C		計							
	通常	割引	通常	割引																					
常年開館日数 274日間	5,797	906	449	7	0	0	140	7,299	1,543	405	465	292	2,122	4,827	12,126	1,838	7,655	9,493	21,619	786	1,445	23,064			
第111回企画展 怪談－こわい話に 花が咲く－ 4/17～5/15 6/14～7/4 43日間	792	57	58	0	0	0	18	925	332	51	0	48	229	660	1,585	300	0	300	1,885	130	175	2060			
第112回企画展 宮沢賢治－みんな のほんとうのさい わいをさがしに－ 7/10～9/20 65日間	2,794	417	197	2	0	0	57	3,467	864	174	8	128	880	2,054	5,521	277	5,011	5,288	10,809	191	386	11,195			
第113回企画展 わらう！太宰治 10/9～12/19 62日間	1,480	279	158	2	0	0	35	1,954	280	109	457	73	710	1,629	3,583	648	1,718	2,366	5,949	305	370	6,319			
第114回企画展 写真で見る近代詩 －没後20年伊藤信 吉写真展－ 1/16～3/14 50日間	390	116	21	1	0	0	20	548	30	60	0	37	285	412	960	483	300	783	1,743	160	205	1,958			

② 閲覧室利用者

書庫資料閲覧		複写		調査相談件数			閲覧室利用者数
人数	冊数	件数	枚数	口頭	電話	文書	
22名	142冊	8件	188枚	1件	0件	0件	

③ レファレンス

レファレンス件数	うち土屋文明について
14件	7件

④ 貸室等利用者

企画展示室		研修室		和室		総計	
件数	利用者数	件数	利用者数	件数	利用者数	件数	利用者数
－	－	10件	350名	－	－	10件	350件

⑤ ホームページアクセス数 ※ 令和3年4月1日公式ホームページリニューアル

年間アクセス件数	一日平均アクセス件数
40,850 件	112件

詳細については別記(5.(10)広報活動 参照)

(3)歳入歳出(決算)の状況

(単位:千円)

区分	金額	内容
歳入	5,053	
観覧料	3,167	
施設使用料	638	レストラン、研修室等
施設使用光熱水費	388	レストラン
その他	860	書籍販売等
歳出	95,141	
管理運営	76,586	文学館の維持管理
資料展示	11,420	常設展示メンテナンス、企画展示
資料購入	256	
資料管理	5,255	資料保存、情報システム
教育普及活動	1,624	文学講座等教育普及事業

(4)修繕

	修繕項目	工期	
1	消防設備二酸化炭素消防設備容器弁等交換工事	11月12日	2月22日
2	自動火災報知設備交換工事	11月12日	3月15日
3	エアハンドリングユニット気化式加湿器等修繕	8月11日	11月16日
4	収蔵庫用加湿器(ディスプレイ)部品交換工事	8月11日	11月19日
5	デジタル指示調節計交換工事	8月11日	10月8日
6	非常灯更新工事	11月12日	2月14日
7	給水ポンプユニット部品交換工事	9月10日	1月11日
8	避難誘導灯交換修繕	9月3日	9月10日
9	収蔵庫扉修繕工事	9月3日	12月10日
10	レストラン冷蔵庫修繕工事	11月26日	12月21日
11	職員駐車場補修工事	8月26日	8月26日
12	冷温水機2号機リーク部溶接修繕工事	3月7日	3月16日

(5)備品

主な購入備品

	購入備品	個数
1	非接触式体温検知器	1
2	ビデオカメラレコーダー	1
3	プロジェクター	1
4	iPadAir	1
5	ミニシアター用DVD	5
6	イーゼル両面看板	2
7	飛沫防止スクリーン	2
8	飛沫防止用支柱	1

収集対象資料(図書・雑誌・特別資料等)については別記(6.(1)資料収集 参照)

4 展示活動

(1)常設展示

常設展示室では、歌人・土屋文明(1890－1990)の作品と生涯を紹介し、中央の「三十六歌人」コーナーでは、『万葉集』以来の短歌史を彩る歌を歌人たちの人形とともに味わい、『万葉集』『古今和歌集』『新古今和歌集』をはじめとした資料により和歌・短歌の世界に触れることができる。

① 土屋文明－その作品と生涯－

文明の作品と生涯をたどる6章で構成されている。

◇ 第1章 榛名山のふもとで育つー『アカネ』への投稿ー

土屋文明は、現在の高崎市保渡田町に生まれ、伯父夫妻に預けられて育ち、上郊尋常小学校から旧制高崎中学校に進学。蛇床子じゃしょうしの名で短歌を発表し同校の国漢教師・村上成之しげゆき へいぎよ(蛎魚)の紹介で、伊藤左千夫を頼って1909(明治42)年4月に上京した。

◇ 第2章 東京から長野へー短歌と小説と教職とー

上京した年の秋、文明は旧制第一高等学校に入学し、東京帝国大学哲学科に進学後は、山本有三、芥川龍之介、菊池寛などの若き文豪たちと交流し井出説太郎の名で小説も発表した。東京帝国大学を卒業後、1918(大正7)年、島木赤彦の推薦で諏訪高等女学校に赴任、教育者として長野県の諏訪・松本で6年の歳月を過ごした。その後、上京して、1925(大正14)年には第一歌集『ふゆくさ』を出版した。

◇ 第3章 歌壇の中樞に一写生、破調、「思想的抒情詩」一

1930(昭和5)年3月、斎藤茂吉に代わり『アララギ』の編集発行人となり、選歌、校正、雑誌の発送、面会による歌稿の添削、歌評会の設定など精力的に会員を導いた。一方、工場や鉄道などの近代的風物を、極端な字余り、破調で表現するなどを試み、代表作の一つである第三歌集『山谷集』を出版する。

◇ 第4章 万葉集研究の継続—自らの足で感じる—

万葉集研究は、『古今和歌集』を攻撃して『万葉集』を賞揚した正岡子規の流れを汲む短歌結社「アララギ」に引き継がれる重要テーマであり、文明は戦中から戦後にかけて万葉ゆかりの地をよく歩き、その成果は4,500首以上ある『万葉集』の全歌注釈である『万葉集私注』(全20巻、1949—1956年)に結実した。

◇ 第5章 川戸への疎開—敗戦と第二芸術論に抗して—

空襲で青山南町(現・東京都港区南青山)の家を焼失した文明は、1945(昭和20)年6月、吾妻郡原町川戸(現・東吾妻町)に疎開した。敗戦後の虚無感や、俳句・短歌を芸術以下の「第二芸術」と貶める論調に抗し、短歌や言葉の重要性を擁護する力強い作品を生み出す。自給自足の生活を送りながら、川戸を起点として『アララギ』の復興、地方アララギ誌の創刊などに力を注いだ。

◇ 第6章 東京南青山での日々—歌壇の最長老に—

1951(昭和26)年11月、疎開地から南青山に戻ってきた文明は、1953(昭和28)年に宮中歌会始の選者となり、『万葉集私注』で芸術院賞を受賞。晩年まで、作歌はもちろん『アララギ』や新聞の選歌にも力を注ぎ、96歳で文化勲章を受章、1990(平成2)年、満100歳で歌に捧げたその生涯を閉じた。

☆ 移築書斎

新居の設計は弟子の歌人で清水建設の設計技師であった近藤芳美が行った。引戸がついた書棚や辞典類を広げるための出窓があり、隣接するサンルームから橙や方竹、川戸の山から移し植えた木などがある庭への出入りが可能であった。当館常設展示室内には、移築した書斎とサンルームが、外光を取り込む形で復元されている。

☆ 方竹^{ほうちく}の庭

移築書斎の窓の外には、南青山の文明旧宅から24種43本の樹木が当時の配置を参考にして移植され、文明の長女・草子^{かよこ}がこれを「方竹の庭」と名付けた。方竹とは、四角に近い断面を持つ竹、シホウチクのことである。

② 「三十六歌人」コーナー

常設展示室の中央部を取り囲む柱には、中学校、高校の教科書をベースにして当館が独自に選んだ「三十六歌人」の人形が埋め込まれ、それぞれ1首ずつの短歌を紹介している。

中央のケースには、三大歌集(『万葉集』、『古今和歌集』、『新古今和歌集』)から現代短歌に至るまでの資料を展示している。

【資料点数】

200 点

(①第1章15点、第2章29点、第3章26点、第4章24点、第5章29点、第6章26点、②51点)

※ 陶板画、書斎の遺品は含まず。

③ 映像展示室

本年度は1階ロビーの映像展示室を企画展に合わせた映像資料上映に使用した。

企画展名	内容等
「宮沢賢治 －みんなのほんとうのさいわいをさがしに－」	DVD「銀河鉄道の夜」(KAGAYA)
「わらう！太宰治」	DVD「太宰治のシルエット」(青森県近代文学館)
「写真で見る近代詩 －没後20年伊藤信吉写真展－」	「伊藤信吉ってどんな人？」(当館作成)

※ 第111回企画展「怪談－こわい話に花が咲く－」期間中は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため閉鎖。

※ 令和4年3月、映像展示室に大型スクリーン導入。

④ 文学者の筆跡

1階ロビーのタッチパネルで群馬県ゆかりの文学者の直筆原稿や色紙、短冊などを見ることができる。

・村上鬼城(1865－1938 俳人)・田山花袋(1872－1930 小説家)・山村暮鳥(1884－1924 詩人)
・萩原朔太郎(1886－1942 詩人)・大手拓次(1887－1934 詩人)・土屋文明(1890－1990 歌人)
・高橋元吉(1893－1965 詩人)・萩原恭次郎(1899－1938 詩人)・吉野秀雄(1902－1967 歌人)
・伊藤信吉(1906－2002 詩人)

※ 本年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため利用中止。

(2)企画展示

① 第111回企画展「怪談－こわい話に花が咲く－」

◇ 期間:令和3年4月17日(土)～5月15日(土)、6月14日(月)～7月4日(日) (開催日数43日)

※本来の会期:4月17日(土)～6月13日(日) 新型コロナウイルス感染症拡大に係るまん延防止等重点措置の適用により、5月16日(日)から6月13日(日)まで臨時休館。同措置の解除に伴い会期を延長。

◇ 趣旨・内容

世に現れる怪異。かつて人々は、怪しいもの、恐ろしいものに対し、「語る」ことで、その恐怖に対抗した。明治維新を迎えると、幽霊や妖怪は合理的解釈によって存在を否定され、怪談も一時衰退する。しかし、怪異そのものが世から消えることはなかった。明治末期には盛んに怪談会が開かれ、その動きは文学者たちの間にも大きく広がっていく。

本展では、小泉八雲、夏目漱石、森鷗外、泉鏡花、芥川龍之介らが手がけた怪談・奇談を中心に、群馬を舞台とした怪談や群馬ゆかりの作家による怪談作品を取り上げた。また、現代に怪談ブームを巻き起こした『学校の怪談』シリーズをはじめ、子どもたちに向けた、ちょっとこわい本を紹介した。

◇ 展示構成

- 1.近代の怪談
- 2.よみがえる怪談
- 3.文壇と怪談文学
- 4.群馬×怪談
- 5.子どもたちと怪談

◇ 展示資料点数:約165点

◇ 主な展示資料

- ・LAFCADIO HEARN 著『KWAIDAN(怪談)』
- ・森鷗外著『走馬灯』
- ・泉鏡花著『草迷宮』
- ・柳田國男書簡 田山花袋宛(田山花袋記念文学館蔵)
- ・『文藝倶楽部定期増刊』16巻14号 続々怪談揃(徳富蘆花記念文学館蔵)



② 開館25周年記念 第112回企画展 「宮沢賢治－みんなのほんとうのさいわいをさがしに－」

◇ 期間:令和3年7月10日(土)～9月20日(月・祝) (開催日数65日)

◇ 趣旨・内容

「銀河鉄道の夜」、「注文の多い料理店」、「セロ弾きのゴーシュ」など、数々の作品を生み出した宮沢賢治。明治29(1896)年、岩手県花巻市に生まれた賢治は、文学・科学・宗教・農業・教育など様々な分野で活躍しながら37年の生涯を送った。賢治の心にいつもあったのは、世界全体の、幸福。自然と、宇宙と、音と、ことばと、あらゆる生き物と響き合った賢治の世界を紹介。

◇ 展示構成

I.宮沢賢治の生涯

- 1.花巻に生まれて－幼少時代－
- 2.文学への目覚め－盛岡中学校時代－
- 3.仲間との出会い－盛岡高等農林学校時代－
- 4.自らの心に従って－国柱会入会・上京－
- 5.生徒と過ごした日々－教師時代－
- 6.農民芸術の実践－羅須地人協会設立－
- 7.最後の就職－東北砕石工場勤務－
- 8.願いを託して－賢治の最期－
- 9.雨ニモマケズ手帳

II.群馬と賢治



◇ 展示資料点数:約100点

◇ 主な展示資料

- ・雨ニモマケズ手帳(林風舎蔵)
- ・宮沢政次郎書簡 小倉豊文宛 昭和22年(1947)10月15日付(個人蔵)
- ・草野心平原稿「賢治全集(文園堂・十字屋書店)の刊行まで II」(いわき市立草野心平記念文学館蔵)
- ・宮沢賢治著『注文の多い料理店』、『児童文学』第1冊、第2冊(山梨県立文学館蔵)
- ・宮沢賢治葉書 吉野秀雄宛(県立神奈川近代文学館蔵)

③ 第113回企画展「わらう！太宰治」

◇ 期間:令和3年10月9日(土)~12月19日(日) (開催日数62日)

◇ 趣旨・内容

『人間失格』『斜陽』『走れメロス』など、数多のすぐれた作品を残し、38歳で忽然とこの世を去った太宰治。彼の作品や生涯をたどる時、そのイメージは主に「苦悩」「心中」「悲劇」といったことばとともに固められてきた。しかし一方で、太宰作品の多くに「わらい」を誘う要素があるということも、途切れることなく指摘され続けてきた点である。本展では、太宰作品の「わらい」に注目し、ユーモアや機知に富む秀作群に再度光を当てることで、太宰治＝苦悩を書く作家、というイメージにおさまらない、太宰文学の懐の深さを紹介した。群馬県と太宰の繋がりも併せて展示した。

◇ 展示構成

I. 生誕～学生期

II. 作家デビューと苦難の日々

群馬と太宰(1)谷川温泉

III. 戦時下の安定した創作活動

群馬と太宰(2)四万温泉

IV. 流行作家としての活躍と死

◇ 展示資料点数:約135点

◇ 主な展示資料

- ・太宰治原稿「グッド・バイ」(日本近代文学館蔵)
- ・太宰治書き込み入り『新約聖書略註』(県立神奈川近代文学館蔵)
- ・太宰治書簡 井伏鱒二宛 昭和13年(1938)8月11日(山梨県立文学館蔵)
- ・二重廻し(五所川原市教育委員会蔵)
- ・「人間失格」執筆机(個人蔵)
- ・『カルト・ブランシュ』16号、『新日本第30号 探偵よみもの号』、『ホープ』1巻11号(斎藤理生氏蔵)



④ 第114回企画展「写真で見る近代詩―没後20年伊藤信吉写真展―」

◇ 期間:令和4年1月15日(土)~3月13日(日)(開催日数50日)

◇ 趣旨・内容

前橋市出身で詩人・評論家として活躍し、当館の開館時館長を務めた伊藤信吉は、昭和30年代末から約10年をかけて、全国の詩人ゆかりの地を訪ねた。それは、詩人としての伊藤の人生に大きな視点の変化をもたらすものであった。

本展では、高度経済成長期の激変する社会の中で伊藤が見、写真に残した風景を、その土地と詩人との結びつきに着目した紀行文とともに展示した。

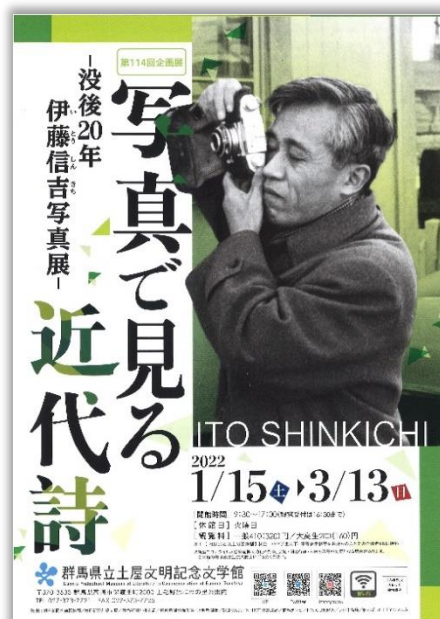
◇ 展示構成

- I.伊藤信吉プロフィール
- II.伊藤信吉が旅した近代詩の世界
- III.カメラを通して語られる伊藤信吉の抒情風景

◇ 展示資料点数:105点

◇ 主な展示資料

- ・カメラ Nikon(ニコン) F、Windsor(ウインザー)35(個人蔵)
- ・書「旅にて」、『ユートピア紀行』初版本(個人蔵)
- ・川端康成書簡 伊藤信吉宛 昭和42年(1967)2月24日付
- ・島崎藤村葉書 伊藤信吉宛 昭和10年(1935)9月27日付
- ・室生犀星原稿『『島崎藤村の文学』序』
- ・萩原朔太郎書簡 伊藤信吉宛 昭和11年(1936)2月24日消印
- ・高村光太郎葉書 伊藤信吉宛 昭和21年(1946)4月28日付
- ・新収蔵資料 スクラップブック「詩 戦後―一九七八(昭和四八)まで」 昭和37年(1962)~昭和52年(1977)ほか
- ・写真パネル『詩のふるさと』『詩の旅』ほかより



(3)移動展

当館の展示資料を利用して、市町村、市町村施設(図書館、公民館等)、大学、学校等が主催し、当館が共催して移動展を開催した。

① 展示内容一覧(資料点数)

展示名	展示内容	資料点数
A 夢みる女性誌	明治から昭和30年代までの女性誌の変遷を通じて、女性誌のあり方、求められた女性の生き方などを紹介。	・雑誌と付録 242 点 ・パネル、バナー A3～B5判 42 点
B ぐんま文学の森	群馬県は、詩・短歌・俳句・小説など、ジャンルを問わず優れた文学者が生まれ、育ち、生活した土地柄。また、多くの文学者が訪れて優れた作品を残した。本展では、明治から現代までの群馬ゆかりの文学者 100 余名を、書籍や雑誌等の資料とともに紹介。	・約 150 点
C 紙芝居	紙芝居は、昭和5年頃に「黄金バット」「鞍馬天狗」などの街頭紙芝居として登場した日本特有の文化財。本展では、紙芝居のルーツを辿り、街頭紙芝居から教育紙芝居、外国人向け紙芝居など様々な紙芝居とその歴史を紹介。	・約 100 点
D 群馬の詩人	群馬県は、多くの近代詩人を輩出した土地柄として全国に知られている。本展では、湯浅半月、萩原朔太郎、大手拓次、山村暮鳥、萩原恭次郎ら51人の詩人について紹介。	・約 100 点 ・51 人×2枚 ・パネル100cm×90 cm
E 山村暮鳥 真実に生きようとするもの	「いちめんのなのはな」のフレーズを繰り返す「風景 純銀もざい」や「雲」の詩などで知られる詩人・山村暮鳥(1884-1924)は、現在の群馬県高崎市に生まれた。病と貧困に苦しみながらも、真実に生きることを求め続けた山村暮鳥について紹介。	・約 120 点
F 詩人 大手拓次 孤独の箱のなかから	群馬県安中市磯部出身の大手拓次(1887-1934)は、大学時代、フランス象徴詩との出会いを経て自らの詩論を確立。その口語による象徴詩は北原白秋や萩原朔太郎から高く評価された。孤独に、そして一途に最上の詩を求め続けたその詩業を紹介。	・約 100 点
G 文学者の書一筆に込められた思い	文学者それぞれの書への向き合い方や、周囲からの評価などとともに、各人がしたための短歌・俳句等の作品や書簡などを紹介することで、文学者の書の魅力に多面的に迫る。	・約 90 点

H パネル いのちのえほん	平成13年に群馬県で開催された第16回国民文化祭の事業の1つとして詩画集『いのちのえほん』が発行された。特別支援学校に通う児童生徒が描いた絵画に、松谷みよ子や永六輔ら著名人が詩やエッセイを寄せ、作品が収録された。本展では、これら全作品を印刷パネルにして紹介。	・パネル 122 点 ・パネルサイズ 22cm×60cm ・アルミ枠額装済
I パネル 童謡のふるさと 石原和三郎の世界	本展では、「うさぎとかめ」「はなさかじい」などの作詞で知られる勢多郡花輪村(現・みどり市)出身の石原和三郎を取り上げ、その多岐にわたる業績と生涯を豊富な写真と解説文(読みがな付)で紹介。	・B2パネル 19 点 ・アルミ枠額装済
J パネル 夭折の詩人 長澤延子 と中沢清	17歳と22歳という若さで亡くなった群馬県出身の2人の詩人、長澤延子(1932-1949)と中沢清(1932-1956)を取り上げる。昭和20年代に青春を過ごした2人は、それぞれ人生に真剣に向き合い、優れた詩を残した。本展では、2人の詩と人生を自筆資料(複製)を交えて紹介。	・B2パネル 12 点 ・アルミ枠額装済 ・原稿ノートの複製資料、約 30 点
K パネル 襄と八重の上州	「上毛かるた」でおなじみの新島襄(安中藩出身)とその妻・八重の群馬との関わりや、襄の精神を受け継いで各分野で活躍した人々(湯浅治郎、柏木義円、湯浅半月等)の業績を紹介。	・B2パネル 20 点 ・アルミ枠額装済
L パネル 文学者の書一筆に込め られた思い	文学者それぞれの書への向き合い方や、周囲からの評価などとともに、各人がしたための短歌・俳句等の作品や書簡などを紹介することで、文学者の書の魅力に多面的に迫る。	・B2パネル 25 点 ・アルミ枠額装済 ・紐付き
M パネル 現代歌人27人が選ぶ 土屋文明短歌	令和2年度に開催した土屋文明生誕130年没後30年記念展の特別企画として作成したもの。俵万智、永田和宏など現在活躍する27人の歌人が土屋文明の秀歌を選び解説する。	・短歌ポンジ 24 点 150cm×30 cm ・A1パネル 27 点 解説、プロフィール

※ H～Mのパネル展は、学校・図書館等の一般施設でも展示できるよう工夫した。壁面展示に最適

※ A・G・H・L・Mは分割展示可能

※ Dはパネルのみの展示も可

② 開催実績

展示名	開催期間	展示会場(施設名)	入場者数
いのちのえほん	6/21~7/9	前橋市桂萱公民館	550 名
文学者の書－筆に込められた 思い	7/6~7/18	吉岡町公民館	1,300 名
童謡のふるさと 石原和三郎の 世界	8/1~/29	高崎市立榛名図書館	3,159 名
紙芝居	8/1~9/26	徳富蘆花記念文学館	307 名
文学者の書－筆に込められた 思い	9/21~10/21	渋川市金島公民館	215 名
夢みる女性誌	9/28~11/28	徳富蘆花記念文学館	647 名
童謡のふるさと 石原和三郎の 世界	10/22~12/3	群馬県立沼田女子高等学校	420 名
いのちのえほん	11/25~12/6	前橋市中央公民館	300 名
合計			6,898 名

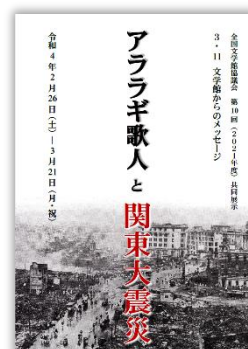
(4)ミニ展示

所蔵資料等を活用して、折々の話題に合わせたテーマの展示を行った。

展示名	開催期間	内容	点数
夭折の歌人・澤浦盛衛 没後90年－写真でみる澤浦盛衛作品－	(令和3年)3/24～ 4/11	伊勢崎市出身で島木赤彦に師事、31歳で夭折したアララギ歌人の作品を資料と岡村文夫氏の写真パネルで紹介した。	23点
新収蔵資料公開 夭折の詩人 長澤延子	10/16～10/31	桐生市に生まれ17歳で自死した詩人のノートの複写や肖像写真等、新収蔵資料を紹介した。	6点
群馬県文学賞受賞作品展	2/2～2/23	令和3年度第59回群馬県文学賞受賞者5名の作品を展示した。	7点
全国文学館協議会 2021年度 共同展示 アララギ歌人と関東 大震災	2/26～3/21	アララギの歌人たちが当時未曾有の震災とどう向き合い、また、そこからどのような作品が生まれたのかを紹介。	6点

(5)特別展示

展示名	開催期間	内容	点数
群馬県立土屋文明記念文学館 所蔵『新古今和歌集』写本特別 公開	2/11～2/28	当館が所蔵する伝世尊寺定成筆『新古今和歌集』は、鎌倉時代中期～後期のものとされる。今般の公益財団法人三菱財団協力による修理を終えたことを受け、特別公開した。	2点



5 教育普及活動

(1)企画展記念講演会 新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、各回とも定員を減らして開催した。

企画展名	開催日	演題・講師	受講者数
第111回企画展 「怪談－こわい話に花が咲く－」	5/30(日) →6/27(日)	「文豪たちと怪談文芸」 東雅夫氏(アンソロジスト、文芸評論家)	64名
第112回企画展 「宮沢賢治－みんなのほんとうの さいわいをさがしに－」	8/7(土)	「祖父 清六と 宮沢賢治」 宮沢和樹氏(株式会社 林風舎 代表取締役)	61名
	8/29(日) →1/29(土)	「『銀河鉄道の夜』の旅を胸に、ジョバンニは どう生きるだろうか」 栗原敦氏(実践女子大名誉教授・公益財団 法人日本近代文学館理事)	28名
第113回企画展 「わらう！太宰治」	11/6(土)	「太宰治の笑いの方法」 斎藤理生氏(大阪大学大学院文学研究科 教授)	103名
	12/12(日)	「太宰治 思想と服装と笑い」 町田康氏(小説家、ミュージシャン)	101名
第114回企画展 「写真で見る近代詩－没後20年 伊藤信吉写真展－」	2/5(土)	「写真家の心 詩人の眼－伊藤信吉さんの こと」 小松健一氏(写真家)	44名
	3/5(土)	「『ひらく』詩の世界－伊藤信吉、旅の先 にあるもの－」 東谷篤氏(日本社会文学会理事)	39名
合計			440名



東雅夫氏



宮沢和樹氏



栗原敦氏



斎藤理生氏



町田康氏



小松健一氏



東谷篤氏

(2)企画展・特別展関連行事 新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、各回とも定員を減らして開催した。

企画展名	開催日	行事名・講師名等	受講者数
第111回企画展 「怪談－こわい話に花が咲く－」	4/29(木・祝)	「四谷怪談」 神田山緑氏(講談師、講談協会真打)	66名
第112回企画展 「宮沢賢治－みんなのほんとうのさいわいをさがしに－」	7/18(日)	朗読イベント「銀河鉄道の夜」～藤城清治の影絵とともに～ 朗読:渡辺陽与氏	77名
	7/22(木・祝) ※9/4(土)は感染拡大のため中止	クラリネットとピアノによるロビーコンサート 神戸圭介氏、道子氏	53名
	9/19(日) →3/13(日) ※感染拡大のため延期	朗読イベント「セロ弾きのゴーシュ」～演奏とともに～ 朗読:渡辺陽与氏 チェロ演奏:ジェフリー・バドリック氏	49名
第113回企画展 「わらう！太宰治」	11/21(日)	「語り劇版 走れメロス」 小河知夏劇場	101名
合計			346名



神田山緑氏



渡辺陽与氏



ジェフリー・バドリック氏



神戸圭介氏・神戸道子氏



小河知夏劇場

(3)文学講座 本年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、回数、定員を減らして開催した。

演題と講師	開催日	内容	受講者数
「大戦末期の文明、楸邨の大陸行 その謎を解く」 雁部貞夫氏(新アララギ代表)	10/24(日)	土屋文明の歌集『 ^{かいせいしゅう} 葦菁集』を中心に講演。 『葦菁集』を「戦争歌集」とする評価は受け 入れることができないなど、文明と面識の ある講師ならではの実感のこもった話がな された。	42名
「最新技術を使った『新古今和歌集』 写本及び古筆切の修理」 半田昌規氏(株式会社半田九清堂社長)	2/20(日)	『新古今和歌集』写本の修理前の記録・調 査、解体、剥落止め、汚れ除去、補紙作製、 綴じなどの様子を工程ごとに画像を使い解 りやすく説明。	66名
「土屋文明記念文学館本を読みつ つ考える『新古今和歌集』の歴史」 海野圭介氏(国文学研究資料館 教授、総合研究大学院大学教授)		『新古今和歌集』編纂の歴史を解説後、次に 館蔵本について、13世紀後半頃の書写で あること、切り継ぎ時代の伝本として精選 度の高い写本であること、下冊は裁断され 一部が古筆切として伝わるが、今後も見つ かる可能性があることなどが話された。	
合計			108名



雁部貞夫氏



半田昌規氏



海野圭介氏

(4)群馬県文学賞受賞記念講演会・受賞作品展

「群馬県文学賞」は、群馬県における文学活動の振興を図るため、1年間の文学各部門の創作活動の中から、特に優れた作品を選奨している。当館では受賞記念講演会と受賞作品のミニ展示を行った。

◇ 受賞記念講演会

令和3年度第59回群馬県文学賞受賞者6名のうち3名が下記のとおり講演した。

本年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、各回とも定員を減らして開催した。

受賞者	受賞作品と演題	開催日	受講者数
[俳句] 田中恵子氏	受賞作品「紙風船」(30句) 演題「俳句と生き甲斐」	2/11 (金・祝)	29名
[随筆] 吉田光正氏	受賞作品「石に命を－彫刻写真とエッセイ－」 演題「私の彫刻人生」		
[児童文学] 鈴木堇氏	受賞作品「夢絵の具」 演題「文章で遊ぶ」		

◇ 受賞作品展

展示名	開催期間	内容	点数
第59回 群馬県文学賞受賞作品展	2/2～2/23	受賞者5名の図書・雑誌・作品パネル等を展示した。	7点



(5)学校教育との連携

① 短歌教室

著名な歌人を招き、学校で短歌についての授業を行う事業。

令和3年度「歌人が学校に！～選歌と講評から学ぶ～」実施校

学校名及び講師	学年	開催日	参加者数
富岡市立東中学校 今野寿美氏（リモート）	2 学年 3 学級	9/24(金)	103名
高崎市立金古小学校 笹公人氏	4 学年 2 学級	9/29(水)→	59名
	5 学年 2 学級	11/17(水)	60名
館林市立第二小学校 今野寿美氏	6 学年 2 学級	10/1(金)	54名
渋川市立渋川北小学校 今野寿美氏（リモート）	6 学年 2 学級	10/5(火)	68名
高崎市立上郊小学校 東直子氏	4 学年 2 学級	10/8(金)	41名
	5 学年 2 学級		53名
群馬大学共同教育学部附属中学校 今野寿美氏	2 学年 4 学級	10/15(金)	136名
群馬県立利根実業高等学校 笹公人氏	1 学年 2 学級	10/18(月)	75名
沼田市立多那小学校 東直子氏	6 学年 1 学級	11/25(木)	7名
昭和村立大河原小学校 東直子氏	4 学年 1 学級	11/25(木)	15名
合計			671名

② 学校団体等の受入

学校名	開催日	人数	引率者
群馬県立高崎高等特別支援学校(1学年) 見学	6/25(金)	8名	2名
高崎市立堤ヶ岡小学校(6学年) 宮沢賢治展見学	9/17(金)	99名	5名
神流町立万場小学校(6学年) オンライン出前授業	10/8(金)	5名	—
前橋市立前橋特別支援学校(中学生) 出前授業	11/30(火)	14名	—
前橋市立前橋特別支援学校(中学生) 出前授業	12/2(木)		
高崎市立箕郷中学校(2 学年) 太宰治展見学	11/25(木)	34名	1名
合計		160名	8名

③ 高崎市立上郊小学校との連携

開催日	実施内容	学年	人数
6/18(金)	常設展観覧、歌碑見学、短歌の授業を実施	5学年	43名
6/25(金)	怪談展観覧と短歌の授業を実施	5学年	44名
6/30(水)	常設展・企画展観覧、歌碑見学、短歌の授業	4学年	58名
11/25(木)	文学館探検	2学年	56名
合計			201名

(6)地域との連携

① 高崎北部地区三館との連携

かみつけの里博物館(高崎市立)、日本絹の里(県立)と連携。「はにわとシルクと文学の高崎北ミュージアムトライアングル」として三館イベントカレンダーを作成しロビーに掲示、三館スタンプラリー、相互見学会などを実施した。

また、日本絹の里及び当館において、相互の観覧料2割引券を発行した。

◇ 三館スタンプラリー

8月7日～9月20日で実施。三館を観覧した方に景品として、三館の招待券、糸山展不織布バッグを贈呈した。

◇ 三館連絡会議の開催状況

開催日	議題	会場
7/30(金)	・令和2年度事業報告 ・令和3年度事業計画案	当館
12/3(金)	・令和3年度事業報告 ・令和4年度事業計画素案	日本絹の里
2/28(月)	・令和3年度事業報告 ・令和4年度事業計画案	かみつけの里博物館

② 高崎市文化協会群馬支部との連携

イベント名及び開催日	内容等
暮鳥・文明まつり 12/5(日)	高崎市市民活動センターソシアスにて開催。本年のテーマは「希望」。テーマに合わせた暮鳥の詩、文明の短歌を当館職員が選び、『入賞作品集』に解説を執筆。当日は会場で特別館長が挨拶をした。

③ 地域のイベントへの参加

イベント名及び開催日	内容等	入場者数
ぐんま「はにわの里」夏まつり 8/22(中止)	例年、ワークショップ等で参加するが本年度は中止	—
かみつけの里古墳祭り 10/17(中止)	例年、ワークショップ等で参加するが本年度は中止	—

(7)子ども向け事業

① 文学クイズ

1階ロビーに設置された文学クイズは、レベル(初級・上級)のほか、プレイモードを1人または2人での対戦から選んで挑戦できる。所定の点数をクリアすると名前と点数が印字された賞状をもらえる。

※ 本年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため利用中止。

② 絵本のひろば

1階ロビーに設置された絵本コーナーは、カーペット敷の床に木製のテーブルとベンチが設置されており、絵本に囲まれた空間で、靴をぬいで絵本を読むことができる。

※ 本年度は新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため利用中止。

③ 常設展ワークシート

常設展「三十六歌人」コーナーを見学しながら答えるワークシートを用意。

④ 企画展関連

企画展名	内容等
「怪談－こわい話に花が咲く－」	謎解きクイズ
「宮沢賢治－みんなのほんとうのさいわいをさがしに－」	クイズ、子ども向け解説、さいわいエピソード
「わらう！太宰治」	ビンゴ風著作一覧、メッセージコーナー
「写真で見る近代詩－没後20年伊藤信吉写真展－」	詩の旅クイズ日本一周

(8) ボランティア活動

① 活動分野

- ・ミュージアムショップ…… ミュージアムショップの運営など
- ・ティーサービス……… 和室での抹茶や煎茶のサービス
- ・環境美化……… 花の提供、清掃、資源ゴミ回収など
- ・広報……… 勤務先や近所などへの当館事業の広報、宣伝
- ・おはなしのへや……… 館内外での読み聞かせや紙芝居実演など

② ボランティア活動状況

◇ 登録者数223名(令和3年度末現在)

◇ 活動実績

活動分野	活動実績
ミュージアムショップの会	毎月1回の定例会の開催、商品の棚卸し・整理をした。
ティーサービス	※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため休止。
環境美化	駐車場等の草刈りを行った。文学館前バス停に、菊を提供するとともに水やり等の世話をを行った。
広報	企画展のチラシ等を配布して広報活動を行った。
おはなしのへや	本年度実施なし。

(9) 自主学習会(原則、年10回開催のところ新型コロナウイルス感染拡大防止のため3回程度中止。)

学習会名	講師名	受講者数
県立文学館 短歌の会	田村 ^{はじめ} 元氏	27名
県立文学館 短歌相互学習会	(歌人、『NHK 短歌』誌上添削教室添削者、「りとむ」所属)	19名
県立文学館 はじめての俳句	鈴木 ^{しょうわ} 章和氏 (俳人、NHK学園俳句専任講師・NHK ラジオ「文芸選評」 選者、「翡翠 ^{かわせみ} 」主宰)	20名
県立文学館 俳句学習会		11名
県立文学館 章和俳句会		13名
県立文学館 翠句会		9名
県立文学館 詩の講座	関口将夫氏 (詩人、画家)	10名
県立文学館 絵手紙の会	福田登美恵氏 (日本絵手紙協会公認講師)	21名

県立文学館 古典学習会 1. 古今和歌集	吉永哲郎氏 源氏物語を読む「蘇芳 ^{すおう} の会」主宰 ※ 新型コロナウイルス感染拡大防止のため本年度休講	—
県立文学館 古典学習会 2. 源氏物語		—
合計		130名

(10)広報活動

① 企画展ポスター・チラシ配布

年4回開催する企画展に合わせて、開催の3週間前に関係機関に配布して広報した。

(配布先)

県内小・中・高等学校・特別支援学校、県内教育機関、県内外博物館・文学館、県内図書館・公民館、県内報道機関、県内観光施設等

② 「施設概要・令和4年度事業案内」配布

年度末に配布して、翌年度の企画展や各種イベント等の事業について広報した。

(配布先)

県内小・中・高等学校・特別支援学校、県内教育機関、県内外博物館・文学館、県内図書館・公民館、県内報道機関、県内観光施設等

③ 県メディアプロモーション課関係広報

県メディアプロモーション課が所管する広報媒体「ぐんま広報」を通じて、企画展や各種イベント情報について広報した。

④ 県内報道機関への PR

県内報道機関に、企画展や講演会などのイベント情報を提供・取材してもらい、新聞等の活字メディアやテレビ・ラジオ等の電波媒体で報道してもらうよう努めた。

(主な報道機関等)

上毛新聞社(ぱれっと編集室、TAKATAI 編集室含む)、朝日新聞社前橋総局、毎日新聞前橋支局、読売新聞前橋支局、東京新聞前橋支局、産経新聞社前橋支局、日本経済新聞社、朝日ぐんま、群馬よみうり、群馬東部よみうり、桐生タイムス、日本放送協会前橋放送局、群馬テレビ、エフエム GUNMA、ラジオ高崎等

⑤ 広報誌掲載

タウン情報誌、月刊情報誌、短歌関連雑誌等の広報誌に情報提供した。

⑥ 刊行物の配布

企画展図録等について、県内教育機関、県内外博物館・文学館、県内図書館等に配布した。

⑦ 公式ホームページ

- ・令和3年4月1日公式ホームページリニューアル
- ・新型コロナウイルス感染拡大防止のための臨時休館や再開、館の感染対策等を告知
- ・企画展、講演会、文学講座などイベント情報を掲載
- ・文学資料の閲覧・検索サービス
- ・「特別館長日記」更新
- ・本年度よりイベント申込フォームの運用開始

⑧ 公式 Instagram

- ・臨時休館、イベント中止のお知らせ
- ・通信販売のお知らせ
- ・企画展のお知らせ
- ・プレゼント企画の告知
- ・投稿件数：59件（企画展40件、常設展1件、特別展示1件、館一般17件）
- ・フォロワー数：375人（令和2年度末から160人増）

⑨ 公式 Twitter

- ・臨時休館や再開等の告知
- ・企画展、講演会等のイベント予定や参加募集及び募集終了の告知
- ・企画展紹介ミニ動画
- ・イベント開催時の混雑への注意喚起
- ・イベントの報告
- ・通信販売のお知らせ
- ・プレゼント企画の告知
- ・記念日や時候に合わせた「今日の土屋文明短歌」の紹介
- ・ゆかりの文学者の命日・誕生日情報など
- ・投稿件数：343件（企画展254件、常設展29件、特別展示12件、資料・書籍1件、館一般47件）

・フォロワー数:860人(令和2年度末から396人増)

	インプレッション (閲覧)	エンゲージメント(反応)				トップ Tweet
		エンゲージ メント率	リンクの クリック	リツイート	いいね	
4 月	131,409	2.10%	187	452	844	4/30 情報解禁👁️群馬で太宰治展！(32,267)
5 月	156,001	2.30%	313	469	928	5/30 休館特別企画:怪談展資料紹介(5)谷崎潤一郎 (3,044)
6 月	108,139	2.00%	147	365	646	6/3 今年の夏は宮沢賢治展を開催(18,544)
7 月	100,286	2.80%	68	360	817	7/10 宮沢賢治展開催中(31,484)
8 月	142,938	2.40%	105	385	1,007	8/11 雨ニモマケズ手帳展示中(10,117)
9 月	69,396	3.40%	147	306	661	9/1「わらう！太宰治」のポスター完成(20,829)
10 月	160,866	3.00%	183	348	794	10/8「わらう！太宰治」開催中(113,634)
11 月	117,799	3.50%	249	558	1,230	11/20 展示資料紹介「人間失格」執筆机(12,435)
12 月	138,198	4.00%	245	246	796	12/13 町田康先生講演会(42,827)
1 月	60,363	3.60%	128	203	439	1/15 伊藤信吉展開催！(11,839)
2 月	36,689	2.70%	76	169	276	2/26「アララギ歌人と関東大震災」スタート(3,358)
3 月	26,710	3.10%	65	117	182	3/16 📢 予告 📢 企画展「落語と文学」開催！(2,877)
合計	1,248,794		1,913	3,978	8,620	

⑩ 群馬県公式 YouTube チャンネル tsulunos で動画公開

- ・3 分でわかる土屋文明記念文学館
- ・斎藤理生氏講演「太宰治の笑いの方法」
- ・小河知夏劇場「語り劇版 走れメロス」生配信(12月19日までの期間限定でアーカイブ配信)
- ・町田康氏講演「太宰治 思想と服装と笑い」
- ・栗原敦氏講演「『銀河鉄道の夜』の旅を胸に、ジョバンニはどう生きるだろうか」
- ・小松健一氏講演「写真家の心 詩人の眼－伊藤信吉さんのこと」
- ・東谷篤氏講演「『ひらく』詩の世界－伊藤信吉、旅の先にあるもの－」

(11)刊行物の発行

種類	名称	規格	部数
図 録	第111回企画展 「怪談－こわい話に花が咲く－」	A4判 8ページ	700 部
	第112回企画展 「宮沢賢治－みんなのほんとうのさいわいをさがしに－」	A4判 24ページ	1,500 部
	第113回企画展「わらう！太宰治」	A4判 24ページ	1,200 部
	第114回企画展 「写真で見る近代詩－没後20年伊藤信吉写真展－」	A4判 24ページ	1,000 部
紀 要	令和3年度 紀要「風」 25号	A4判 65ページ	500 部
チ ラ シ ・ ポ ス タ ー	第111回企画展 「怪談－こわい話に花が咲く－」	チラシ A4判(両面) ポスター B2判	38,000 部 600 部
	第112回企画展 「宮沢賢治－みんなのほんとうのさいわいをさがしに－」	チラシ A4判(両面) ポスター B2判	90,000 部 1,050 部
	第113回企画展「わらう！太宰治」	チラシ A4判(両面) ポスター B2判	35,000 部 500 部
	第114回企画展 「写真で見る近代詩－没後20年伊藤信吉写真展－」	チラシ A4判(両面) ポスター B2判	35,000 部 500 部
他	施設概要・令和4年度事業案内	両観音折り	30,000 部

6 資料収集・調査研究

(1)資料収集

(令和3年度末現在)

資料区分	購入	寄贈	その他(製作等)	3年度合計	収蔵資料合計
特別資料	7	322	5	334	31,419
雑誌・図書	420	1,392	10	1,822	174,529
視聴覚資料	38	1	0	39	243
3年度合計	465	1,715	15	2,195	
収蔵資料合計	47,488	157,184	1,519		206,191

※合計点数は登録作業済の点数。

◇ 主な購入資料

- ・大木惇夫葉書 大手拓次宛 年不明7月11日付
- ・谷崎潤一郎 著『二人の稚児』再版
- ・小泉八雲 著 Hearn, Lafcadio, 『Kwaidan 怪談』
- ・高浜虚子他五大家合作幅

◇ 主な寄贈資料

- ・土屋文明 著 『続万葉紀行』初版
- ・坂梨春水葉書 3 点
- ・宮沢賢治関係書籍 21 点

(2)資料の整理・保存管理

① 資料整理

収集した資料等について、調査、登録(資料保存のための装備)、画像データの磁気化(スキャニング・写真撮影を含む)などの作業を行った。

② 保存管理

◇ 施設燻蒸

虫菌害防止対策として、収蔵施設(収蔵庫・書庫)と展示施設(常設展示室・企画展示室)の燻蒸を隔年で実施している(年1回)。

本年度は、収蔵施設(収蔵庫・書庫)の燻蒸を実施した。

◇ 資料燻蒸

新たに収蔵した資料については、施設燻蒸のときに合わせて実施した。

◇ 日常管理

- ・書庫、展示室の状況について、毎日(朝・夕)見回りして確認している。
- ・収蔵庫・書庫、展示室の温湿度計の計測記録について、週に1回確認している。
- ・常設、企画展示室に加湿器、及び除湿機を設置して温湿度を調整している。

◇ 資料修理

川端康成著『乙女の港』、Lafcadio Hearn 著『Kwaidan』等、11点の修理と雑誌『高原』の合本崩しを行った。

(3)資料貸出

次の1件3点の資料について、借用の申請に基づき貸出を承認した。

貸出資料名	展覧会名	開催期間	展示会場(施設名等)
室生犀星『愛の詩集』 室生犀星『抒情小曲集』 草野心平『第百階級』	書物の或る処－中也詩集と ブックデザイン	7/29～9/26	中原中也記念館

※ 移動展の資料貸出を除く。

7 利用案内・位置図

(1)休館日

- ① 火曜日(祝日の場合は翌日、4月29日から5月5日までの間及び8月15日を含む週を除く)
- ② 年末年始(12月29日から翌年1月3日まで)
- ③ 燻蒸のための臨時休館日
- ④ 企画展前後の展示替期間

(2)開館時間

午前9時30分から午後5時まで(観覧受付は午後4時30分まで)

※ ただし、第1～第3研修室及び和室は、午前9時30分から午後9時まで

(3)企画展観覧料

- ・一般410円、大高生200円(常設展のみ 一般200円、大高生100円)。
- ・第112回企画展「宮沢賢治－みんなのほんとうのさいわいをさがしに－」、第113回企画展「わらう！太宰治」では一般500円、大高生250円。
- ・20名以上の団体は2割引。
- ・中学生以下、障害者手帳等をお持ちの方と介護者1名、県民の日(10月28日)観覧者は無料。

(4)施設利用料

文学関係行事等に利用できる。

区分		午前	午後	夜間	1日
		9:30～12:30	13:00～17:00	17:00～21:00	9:30～21:00
施設	企画展示室	2,640円	3,550円	—	6,190円
	第1研修室	1,160円	1,540円	1,540円	4,240円
	第2研修室	1,160円	1,540円	1,540円	4,240円
	第3研修室	1,160円	1,540円	1,540円	4,240円
	和室	610円	830円	830円	2,270円

※ 付属設備を使用する場合は、別に利用料が必要。

(5)位置図



※ 公共交通機関

① バスを利用される場合

- ・高崎駅西口2番乗り場から群馬バス「^{しんとうむら}しんとう温泉・榛東村役場」行→「^{ほどた}保渡田」下車
- ・前橋駅北口5番乗り場から関越交通バス「土屋文明文学館」行→終点「土屋文明文学館」下車

② タクシーを利用される場合

- ・高崎駅西口から約20分
- ・高崎問屋町駅西口から約15分
- ・新前橋駅西口から約15分